

Mi-3 プロジェクト

学生の居場所を生み出すジャイアント・ファニチャー

東海大学 岩崎克也研究室

0. 背景・主旨

授業形態の多様化により、大学内に居場所を求める学生が増加している。提案場所は、多くの学生が利用する場であるが、什器もシンプルで均質な空間であり、学生のニーズに適応できていない。そこで、多義的に使える大きな家具を設置することで学生の居場所を作るとともに、コミュニティを誘発するような空間を形成する。

1. Mi-3 プロジェクトとは

Million
(百万円)

Mission
(使命、役割)

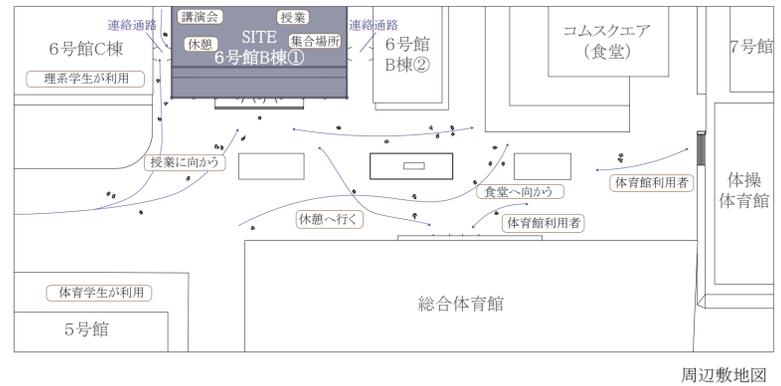
Miracle
(奇跡、偉業)

キャンパス内で2010年度以前に整備された設備を学生の憩いの場を作り替え、利用率や満足度向上を目指そうと、研究室と大学職員で共同で取り組んでいる進行中のプロジェクトである。本プロジェクトでは整備により学生満足度の向上を目指すと共に、学生と施設整備を行う職員が協働し、実践の場として教育研究活動を行うこと、意識醸成を目的とする。研究室メンバー1人1案ずつアイデアを出し、整理してデザイン案を深めている。その後大学施設設備担当者にプレゼンテーションを行い、工事を担当する業者とも調整しながら実際に製作管理するところまでを修士1年の学生を中心に進めている。

2. 敷地

3. スケジュール

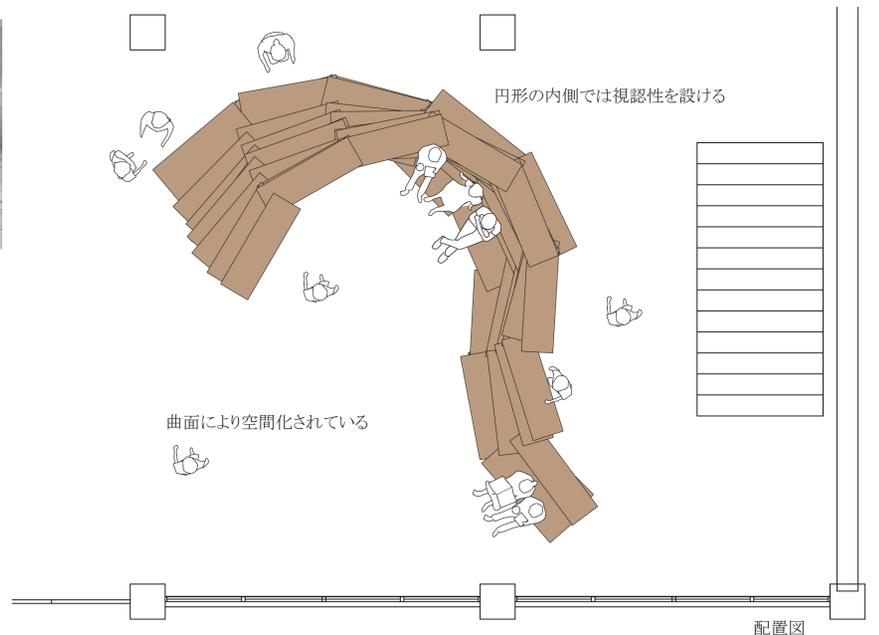
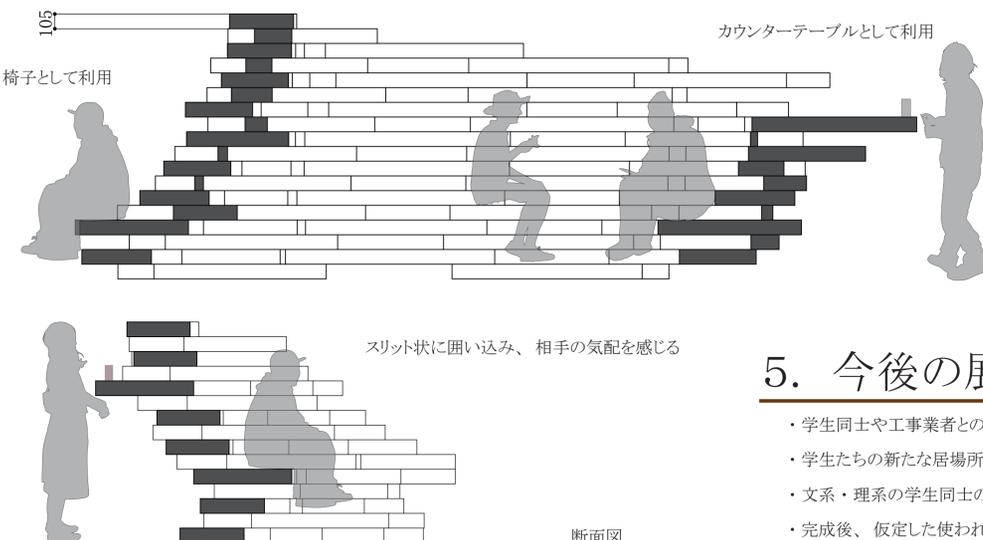
計画敷地：東海大学湘南キャンパス6号館B棟①
利用者：体育学部や健康学部・理工系の学生
特徴：授業前の休憩、屋外授業等の集合場所
現状：学生満足度が低い傾向
古い什器や壁面側に向かい合う形で設置
学修環境や空き時間にリラックスする環境としても芳しくない。



4. 構成

空間を構成する巨大な家具「ジャイアント・ファニチャー」

- ・基準となる1,2段目および端は基準とする材から30°角度を振ることで位置を決定
- ・部材の積み方は下段の2部材の角を2点結んだ補助線に対して平行に配置し部材の基本寸法の450に対して1/2または1/4ずらして配置
- ・居場所としてアクティビティを生む部分に関しては部材の幅を700mmとする
- ・板の重なり、積みあがる高さの変化により多様な居場所を生む。



5. 今後の展望

- ・学生同士や工事業者との打ち合わせで、案のブラッシュアップを行うとともに、木材同士の接合部や端部の構成など細部の検討を重ねる。
- ・学生たちの新たな居場所として、コミュニティハブになることを目指す。
- ・文系・理系の学生同士の結節点となり、交流の幅が広がるキッカケとなる
- ・完成後、仮定した使われ方と、実際の使われ方を調査を行い、他の未整備の場所に対しても、建築学生らしい提案を行っていく